



| 団体名 | 事業等の名称 | 事業実績の概要 | | | | 交付決定 年月日 | 交付金額 (単位:円) |
|----------------|-------------------------|---|--|---|---|-------------|----------------|
| | | 事業の目的 | 事業の実績 | 事業の成果 | 事業実施団体による自己評価 | | |
| F・Cボランティア | 相模原警察署前交差点 植栽帯清掃美化事業 | 国道16号相模原警察署前はさくらまつりのスタート地点であるとともに相模原市役所の玄関とも言える場所。この場所を除草清掃し、花苗を植えることによって、環境美化を図るとともに1年を通して交差点で待つ人、散歩の人達、国道16号の利用者にほっとして和やかな気持ちになれる場所にすもの。 | 7月:アプトカレッジ相模原校生13名と日々草等500苗植える。猛暑で日々草の夏枯れが目立ち100苗追加で植えた。 7月から9月:生活保護就職支援事業生・中高生ボランティアとシフトを組み花の水やりに取り組んだ。 11月:中央区福祉事務所自律支援者や生活保護就職支援事業生たちとピオラ等植え込んだ。 | ・介護専門学校の地域還元実習の受入れ ・市民活動サポートセンター中高生ボランティアチャレンジスクール生の受入れ ・中央区福祉事務所生活保護自立支援受入れ ・生活保護就職事業地域ボランティア受入れ 交差点植栽帯に季節ごとに花が咲き行き交う人達の和み憩う空間になっている。 | 11月15日号広報さがみはら中央区版に取材を受け掲載され、これまでもたくさんの機関の人達の協力でやってこれた。たくさんの花が咲き続き四季折々楽しんで戴けるようになり、うれしく思う。これからも綺麗な交差点であり続けるため、いろんな機関の協力を戴きながら活動を続けていきたいと思う。 | H24.6.1 | 120,000 |
| HOPE.S | さがみはらエコアクション2012 | 地域と学生をつなげながら、身近な環境問題に目を向けること目的とした事業の一つとして、環境を勉強する学生たちが、中央地区の子どもたちに自分が感じる環境問題を聞き、自分たちが住む地域がより良くなる方法を一緒に考えることで、大学生が地域に係る場を提供するとともに、子どもたちに環境への関心を深めてもらうことで、青少年の健全育成を図る | 環境をテーマとした活動により中央区の環境に対する多くの意見を聞くことができた。また、参加していただいた方々に環境について考えるきっかけを与えることができ、子ども未来会議に参加した子ども達においては環境問題に対してどう対策したらいいか考える力ができた。 | エコ行灯作り、子ども未来会議を近い地域で行ったことで子ども達に大学生の活動を知ってもらえた。また協働して環境をテーマに活動を行ったことで地域住民の方には身近な環境について考えてもらうきっかけを与えることができた。 | 今回は主に中央区に住む子ども達を対象に活動を行い日常にある小さな環境について考えてもらうきっかけを与えることができた。また申請当初は予定していなかった異世代交流まで達成できたことで、これからの活動の幅を広げる可能性を持つことができた。この成果をもとに更なる地域発展を目指した活動をしていきたい。 | H24.7.26 | 300,000 |
| 中央地区にぎわいづくり協議会 | 絵本コンクール実施事業 | 未来を担う子どもたちが絵と文章を一から造りだす絵本制作にチャレンジすることで、自分の気持ちや考えを整理して表現することを学んでもらい、豊かな人格の形成と優れた創造力の向上に資するとともに、心豊かな地域文化の創造や親子間のコミュニケーションの促進、地域住民の交流に貢献する。さらには絵本をツールとした様々な事業を実施し、絵本を通じた街おこしを实践する。最終的には「中央地区」=「絵本がうまれるまち」という地域ブランドを確立する。 | 中央小をはじめとした市内9校の小学校に白絵本を配布し、児童に参加を呼びかけたところ、550点の絵本の応募があった。応募作品から市長賞1点、その他の入選作品11点を選定し、3月28日に表彰式を行った。 また、昨年度市長賞に輝いた作品を製本して、各小学校等に配布した。今後、応募全作品を市民桜まつりにて展示予定。また、今回の市長賞作品について、来年度製本して小学校等に配布する予定。 | 550人の児童が参加し、それぞれが20ページの絵本を完成させた。学校からは、「何名の児童が絵本を完成させられるかと思っていたが、やんちゃな子どもたちが休み時間も熱中して絵本を描いているのに驚いた。子どもの想像力、集中力を磨くのに素晴らしい機会なので、ぜひとも来年も続けて欲しい」との評価をいただいた。さらに応募した全作品を展示することで、親子間、地域住民間のコミュニケーションの促進の貢献する。 | 子どもたちに一つのことを熱中することや物語を創造することの楽しさ、自分の考えを整理して表現することの大切さを学んでもらうことが出来た。今後はさらに多くの学校に呼びかけて、より多くの児童に参加してもらうことと、地域の方々にもっと事業を知ってもらって地域交流に役立てていただくよう努めていきたい。 | H24.7.26 | 500,000 |

| 団体名 | 事業等の名称 | 事業実績の概要 | | | | 交付決定 年月日 | 交付金額 (単位:円) |
|---------------------|---------------------|---|--|--|--|-------------|----------------|
| | | 事業の目的 | 事業の実績 | 事業の成果 | 事業実施団体による自己評価 | | |
| 相模原市健康づくり普及員中央地区協議会 | 健康ウォーキングで中央地区を知ろう! | ウォーキングを契機に生活習慣病予防と中央地区を知ってまちづくりの意識を向上させる。 | ウォーキングマップの作成と配布 ・名称を「道知楽(みちらく)マップ」とした。 ・表面のイラストマップ上には、6コースを設定し、コースフロー・コースラインを掲載し、中面には、コースごとの情報を画像を中心に掲載し、他にも、見どころ情報や歳時記などで、中央地区の魅力情報を載せた。 ・イラストマップ作成に関しては、古地図風なイメージで、造形大の学生に依頼した。 ウォーキングの実施 ・「道知楽マップでウォーキング」というテーマで地域情報紙(2月1日号)を使い周知した。 ・歩数計の貸し出しを行って、ウォーキング効果を確認した。 ・3月14日(木)、参加者32名で実施した。 | 「道知楽マップ」がウォーキングによる、健康効果を体験してもらうきっかけ作りとしての動機づけとなることを期待する。 ウォーキングにより地域を知ることが、地域にたいする愛着度を高め、さらに住民同士の親睦を育み、まちづくりへの関心度を高めていくと感じた。 3月14日に実施された「道知楽マップでウォーキング」の参加者からは、住み慣れた地域で、普段は村富神社の歴史や境内の史跡について「あまり興味や知識を持たなかったが、今回の解説や資料で、関心を持った」という感想が多くあった。さらに、中央地区の文化や地域の成り立ち、石造物の存在を再確認でき、身近での楽しい発見に驚きの声が多かった。 | 健康づくり普及員として、地域の住民の健康増進を目的にウォーキングマップの作成を行ったが、取材や編集作業を通して、普及員自身が中央地区の魅力を確認できた。健康のためのウォーキングを普及するとともに、中央地区の魅力も伝えていき、まちづくりの担い手を増やすキーマンとしての役割も強く感じた。 また、「道知楽マップでウォーキング」を実施したことで、地域を知ることが、地域への関心を深め、まちづくりの力に繋がっていくことを確信した。 | H24.8.21 | 450,000 |
| 高根二丁目自治会 | 高根二丁目自治会 世代を超えた文化交流 | 高根二丁目の自治会加入率は約60パーセントであり、当自治会の目標である「地域の子どもから大人までみんな知りあい」の原点に戻り、地域の人々の文化的才能を発表することにより地域の人を知り、交流を図り、地域で子どもを育てることと、自治会加入者促進を目的とする。 | 町内住民保有技能による手づくり体験交流事業の実施 ・日本舞踊観賞と扇子の使い方教室 ・竹とんぼ、ぶんぶんこまの製作 ・オリジナルアプリケふきん、携帯ストラップの製作 ニュースポーツ大会による三世代交流事業の実施 ・ラダーゲッター大会、羽根っこゲーム大会 町内商店会活性化を狙いとした手作り昼食による三世代交流の実施 | 交流型事業の実施により、共助の原点である「住民同士が顔見知りになる」の輪を広げることができた 文化的技能による共同作業によって、地域全体で子供を育てる意識の定着化が図られた 掲示板での開催案内や子供会との共催及び自治会会館での事業実施によって自治会加入促進が図られた | 共同作業など交流型事業により深い顔見知り関係をつくる事ができた 全員名札を着用し、名前呼び合うことで親しみが芽生えた 町内商店の食材を使用した昼食作りにより、商店会を再認識できた | H24.8.1 | 75,000 |
| もみの木コンサート実行委員会 | もみの木コンサート | 1. 中央地区住民の「心のふれあい、共助、支えあい」の意識の高揚を図る 2. 魅力ある自治会の子ども会作りと参加促進を図る 3. 市街化が顕著な中央地区に音楽を通して文化の芽を育てる 4. 音楽を通して、学校、子ども、地域の連携を深める | 1. 地域内の小中学校・高校およびシニアグループ、教師などの出演の他、近隣の小学校の特別出演もあった。 2. 本年度は、地域活性化事業交付金を受けて2年次目の事業である。昨年度の記念事業から、内容の一層の充実が図られ参加者も大幅に増加した。(22年度750人、23年度1345人、24年度1265人) 3. 企画・準備・設営・司会・記念品づくりなど全て地域の人たちによる手作りコンサートである。 | 1. 地区内の育成協、自治連、社協、民児協、青少指のほか多くの団体・ボランティアに支えられ、また学校の理解・協力のもと開催しているが、諸団体と地域の連携強化が重要であることが再認識された。 2. 青少年育成活動の重要性と認識を深めることができた。 | 1. 音楽を楽しみ、子どもたちの成長と活動を理解することが、事業当初の目的であったが、それに加えて今日では、「ふれあい、共助、支え合い」の地域づくり、そして子ども会への加入促進など地域づくりにも貢献するよう努めている。 2. しかし、子ども会への加入促進については不十分である。 3. 今後も本事業を通して、「子どもの安全」「地域の連帯感の醸成」などにつなげていきたい。 | H24.8.27 | 556,000 |

